

第6学年1組 国語科学習指導案

平成21年8月24日(月)

授業者 教諭 T1:小旗 浩徳

T2:山口 賢次

児童数 30名

■本提案のキーワード

伝統的な言語文化の理解、言語活動の充実、表現活動と鑑賞

■本提案の主張点

本提案では、我が国の伝統的な文化である俳句に関心を持ち、心にとめた身の回りの出来事を豊かに表現しようとする子どもの姿を目指す。そのために、俳句の基礎を学ばせ、実際に俳句を作る。その後、友の句に込められた情景や心情について互いに意見を交流し、句の発見を分かち合う学習を展開したい。

■ 授業課題

[1 単位時間の指導計画に位置つけた対話活動の具体化]

作品から読み取った内容を伝え合う対話活動と、読み取った内容を深める対話活動を位置づけ、作品にこめられた情景や作者の思いを想像し、それらを理解する力を伸ばす。

[文学的文章の活用と整備の具体化]

作品の推敲作業を取り入れ、語彙の適否の検討や語彙の拡充に係る学習を行い、言語感覚を養う。また、作品の内容を深く読み取るために話題にすべき重要な語句を探る。

[個人課題]

効果的な発問、情報機器の活用、TTの効果的な活用、ワークシート、場の工夫

1 これまでの指導経過と課題

- ・本学級の児童は今までに、話しことば領域の学習を基盤とした対話活動を継続して学習してきた。その対話活動は、クイズ活動やインタビュー活動などである。また、対話技能を高めるためにキャッチボール言葉なども学習してきた。しかし、自分の考えを対話によって表現することを、積極的な姿勢で取り組んでいる反面、対話技能の習熟については、個人差がある。したがって、話す内容を一人ひとり明確にさせる手立てを講じることにより、学習の目的をよりよく達成させる手段となり得るものと考え。

また、読みを深めるための対話活動も学習してきた。文学的文章では主人公の心情を深く理解するために、説明的文章では段落構成や主題の理解を深めるために行ってきた。

- ・俳句については、第5学年の「短歌と俳句を味わおう」で俳句についての解釈や鑑賞を取り上げている。ただし、今回の学習のように実際に俳句を作る活動は初めてである。本単元では、俳句の基本的な形式に沿って自分の俳句を作り、その作品について友達と読み味わう学習を中心に行う。

2 単元とその指導計画

(1) 単元と教材

単元名 感動をリズムにのせて ～俳句の味わい～

教材名 「感動をリズムにのせて」(東京書籍6年下)、自作教材

(2) 教材の活用のしかたと指導事項

本教材は、俳句を解釈や鑑賞の対象としてではなく、自らの表現活動として取り上げてある。そのため、教材には同年代の児童の作品を掲載して、俳句を身近に感じることができるよう工夫してある。ただ、ここでは秋の季語を使った俳句を扱ってあるので、学習時期を考慮して、夏の季語の俳句を扱うようにする。

指導に当たっては、まず、夏の俳句を使って、「季語」、「切れ字」、「発見のある句」という3つのポイントに絞り、情景や心情が伝わりやすい句の作り方を指導する。その際、それぞれのポイントごとに、2つの句を対比させ、比較検討型の学習活動を仕組み理解を深めさせたい。次に、学校周辺を吟行し、実際に俳句を作らせる。吟行の際には、教師側から情景を感じる視点や言葉を与えるようにし、情景を言葉でスケッチさせる。その後、教室に戻り、集めた言葉を吟味しながら、俳句を多作させる。4時目では、「6年1組夏の一句を選ぼう」というめあての下に簡単な句会を行う。句会に出句する句は、前時に作った俳句の中から三句に絞る。その三句の中から対話活動によって夏の一句を選句させる。夏の一句に選ばれた句は、句集の表紙を飾るという設定にし、選句を行う意義を持たせるようにする。最後に、児童の句を集めクラスの句集を作らせ学習のまとめとしたいと考えている。

(3) 指導目標

- 季語や重要な語句に着目して、俳句に込められている作者の思いや情景を読み取ることができるようにする。(読むこと)
- 読み取った作者の思いや情景を対話活動を通してよりよく伝えることができるようにする。(話すこと・聞くこと)
- 俳句の形式やルールに沿って、思いや情景を効果的に表現することができるようにする。(書くこと)
- 我が国の伝統的な言語文化についての関心をもたせ、俳句についての本を読んだり、意欲的に俳句を作ったりすることができるようにする。(関心・意欲)

3 指導計画

全5時間(本時4/5)

| 次 | 時 | 学習者の意識 | 主な学習活動(○)・指導上の留意点(◆) |
|---|-------|-----------------------------|---|
| 一 | 1 | 俳句作りのポイントを知ろう。 | ○季語と切れ字を上手に使って発見のある俳句を作ってみよう。 ◆以下の3点にポイントを絞って学習を行う。 ・季語について(「季重ね」や「即き過ぎ」) ・切れ字について(「や」「けり」「かな」の効果) ・発見のある句について(作者の心情) |
| | 2・3 | ポイントを生かしてみんなで吟行し、句会を開こう。 | ○俳句作りのポイントを生かして吟行し、句会を開こう。 ◆場を共有し、俳句作りのポイントに考慮しながらその場で感じたことを句に表す。その後、句会を開き3句を選句させる。 |
| | 4(本時) | 情景や作者の思いを想像し「6年1組夏の一句」を選ぼう。 | ○友の句を読み、俳句作りのポイントを考慮したり、情景や作者の思いを感じたりして、夏の一句を選ぶ。 ◆対話活動を通して選句を行い、句に対する解釈を広げさせたり、作者の真意を理解させたりする。 |

| | | | |
|---|---|------------|---|
| 二 | 5 | 自分の句集を作ろう。 | ○今まで作句した俳句を読み返して学習を振り返り、句集を作成する。 ◆俳句作りを通して学んだことを振り返りながら句集を作成させる。 ※夏の一句に選ばれた句は、句集の表紙を飾る。 |
|---|---|------------|---|

4 本時の指導

(1) 本時の目標

- ①学習目標 「6年1組夏の一句」を選ぼう。～情景や作者の思いを想像して～
②指導目標 選句を通して互いに意見を交流させ、友の句に込められた情景や思い、表現の工夫について共有させる。

(2) 対話活動のねらい

- 対話活動① 選句した理由を表現し合い、意見を整理するグループ対話
対話活動② 友の句の発見に気づき、イメージを共有し表現を練り合う全体対話

(3) 本時の展開

| 過程 | 学 習 活 動 | 指導上の留意点 (○) と評価 (◆) | |
|-------------|--|--|--|
| | | T1 | T2 |
| つ か む | 1 前時の学習を想起する。 | ○俳句作りのポイントを振り返り、場で集めた言葉を発表させる。 | ○俳句作りのポイントと場を想起させる映像を提示する。 |
| | 2 本時のめあてをつかむ。 | ○自分たちが作った俳句の中から、最もよい一句を選句するということを押させる。 | ○ 本時のめあてを提示する。 |
| | 「6年1組夏の一句」を選ぼう。 ～情景や作者の思いを想像して～ | | |
| 深 め る | 3 提示された三句を声に出して読む。 4 グループで選句する。 ・ 出句されたものの中から、自分の作品以外を一点選ぶ。(1人読み) ① 季語や切れ字に印をつける。 ② 作者の発見がわかる言葉に線を引き、分かったことを書き添える。 ③ 選んだ俳句に印を付ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">対話活動 I (グループ対話)</div> ・ 各人が選句した作品とその理由を紹介し合う。 | ○五・七・五のリズムに気をつけてゆっくりと読ませる。 ○児童が選句した理由を明確に持つことができるように個別に支援する。 ○グループで候補作品とその理由をまとめ、全体で発表することを指示する。 | ○スマートボードで一句ずつ提示することで、出てくる句に期待感を持たせる。 ○ワークシートへの書き込み方をスマートボードで提示し、学習方法を明確に伝える。 ○発表や進行が滞っているグループを個別に支援する。 |

| | | | |
|------------|--|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> グループで「6年1組夏の一句」にふさわしい一句を選ぶために話し合う。 <p>5 選んだ俳句について全体の場で話し合い、作品への解釈を深める。</p> <p>対話活動Ⅱ（全体対話）</p> <ul style="list-style-type: none"> 各グループが選んだ俳句のよさを発表し合う。 高点句を夏の一句とし、その句に込められた作者のイメージを共有する。 <ul style="list-style-type: none"> よい俳句として選ばれた作者にインタビューをする。 | <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> 〇〇という言葉が、情景をよく表していると思うからです。 重季していないから。 <p>○各グループで出た意見を発表させる際には、必ず選句のポイントを言わせるようにする。</p> <p>○個々の漠然とした句のイメージを統一していく発問を適宜行っていく。</p> | <p>○点数を板書する。</p> <p>○児童から意見が出ない場合、その句のイメージを発言し、児童の発言を誘うようにする。</p> |
| | | <p>◆句に込められた情景や心情に触れ、自分が感じたことが書けているか。</p> <p>○自分の想像していた情景や心情と比較して聞かせる。</p> | <p>○作者児童にインタビュー形式で、俳句に込めた情景や心情をたずねる。</p> |
| <p>まとめ</p> | <p>6 友達の俳句を読み味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 俳句を声に出して読み、本時の感想を書く。 <p>7 学習を振り返り、次時の学習について知る。</p> | <p>○本時の感想を短い言葉で書かせる。</p> <p>○自分の句集を作ること知らせる。</p> | <p>○出句されなかった俳句の中からいくつか紹介をする。</p> |